

平成 23 年 3 月 12 日

空手について

西東京本部 浜田山支部

小林 羊子

空手について改めて考えてみると空手道訓の「空手は己を見つめ己を正し己を磨くものである」という文が思い浮かびます。なぜなら、初段を取得後の私の心境ぴったりと当てはまるからです。

親子で初段を取得後、子供たちは、部活や塾などで練習を休みがちになり、私も子供たちのサポートの為休まざるをえませんでした。そして級の方々への指導をすることもあり、自分の練習時間をとることが出来なくなったことと、初段を取得した満足感で次へのステップに進むことが出来ずにいました。初段はゴールではなく通過点であるとわかっていても空手への意欲が薄れ始め、やめることを何度も考えるようになりました。

そんな中、私の心境に変化を与えたのは、次々に入会される初心者の方々や色帯の方々の意欲、熱意、向上心です。

始めた当初、次々に色々な技を覚え、早く昇級し、次の色帯に変わりたいと熱意や向上心を持っていたものです。そして親子空手での親子の時間の共有により親子の絆を深める大切さなどを忘れていたと思います。

これからは、初心に立ち返り、どのような環境下でも向上心を忘れず空手道訓の意味を思い出し、日々精進してまいります。